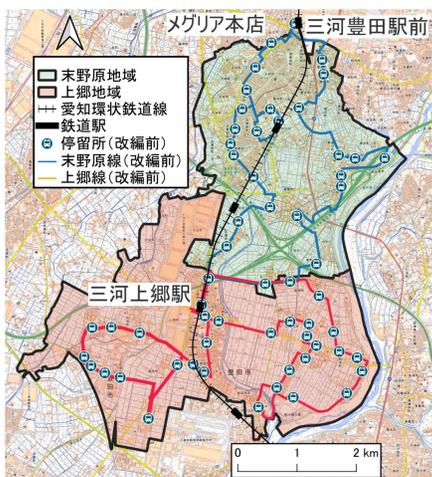


# 地区全体の一体的なオンデマンド交通の導入後の高齢者の移動や外出に関する実態

公益財団法人豊田都市交通研究所 鈴木 渉・山崎 基浩

## 1. 背景・目的

- 豊田市上郷地区では、地区内の2つの地域（末野原，上郷）で別曜日に定時定路線のバスを運行
  - 上郷線の利用者数の少なさ
  - 上郷線沿線で目的地となる施設の少なさ
- ⇒住民のニーズと路線のミスマッチが課題とされ、この解消に向けて、2021年10月にオンデマンド運行へと改編
- 改編にあたり、基本方針の一つに、「上郷地区を一体的に捉え、『おでかけ目的』を創出する地域公共交通サービスの提供」



▲ 現行の上郷地域バスのバス停と車両（筆者撮影）  
 ▲ 上郷地区の範囲と鉄道路線および改編前の地域バス路線（地理院地図（国土地理院）を加工し作成）

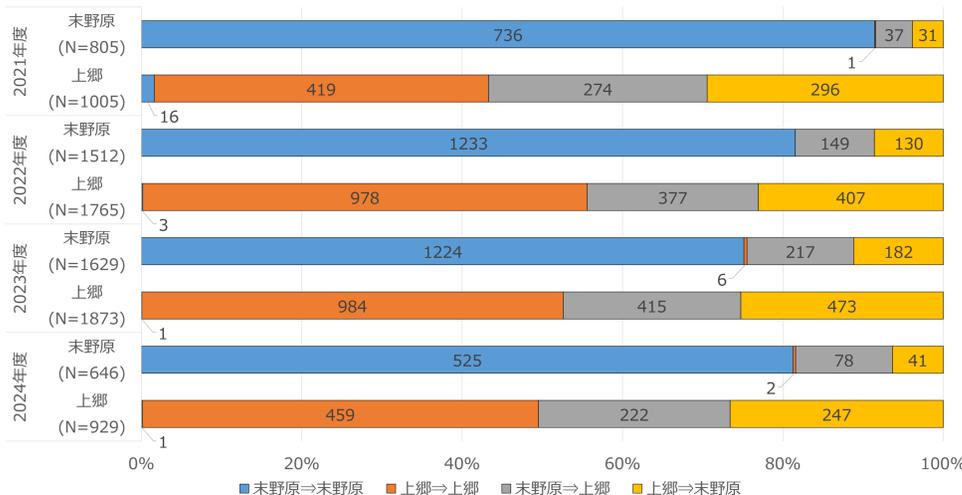
### 目的

主な利用者層である高齢者の移動や外出行動に着目し、**地域を跨いだ移動がどの程度行われているのか、外出回数の変化が生じているのはどういった人なのか**を明らかにすること。

## 2. 地域を跨いだ移動

65歳以上の利用者について、2021年10月～2024年9月の乗車実績データを集計

- ① 初年度の2021年度を除き、地域を跨いだ移動を行っていたのは
  - 末野原地域居住：延べ利用者数の概ね15～25%
  - 上郷地域居住：延べ利用者数の概ね40～50%



- ② 地域を跨いだ移動に限定すると、多く乗降していた停留所は
  - 末野原地域居住の利用者の上郷地域内での乗降：病院の最寄り
  - 上郷地域居住の利用者の末野原地域内での乗降：生活協同組合の最寄りが最多、次いで老人福祉センターや駅の最寄り

▼ 末野原地域居住の利用者の乗降停留所上位5か所

順位	上郷地域内の降車停留所	延べ利用者数 (実利用者数) (人)	上郷地域内の乗車停留所	延べ利用者数 (実利用者数) (人)
1	上郷整形外科・リハビリテーション科	206 (9)	上郷整形外科・リハビリテーション科	166 (8)
2	上郷コミュニティセンター	87 (9)	上郷コミュニティセンター	79 (7)
3	医療法人岡田歯科医院	51 (6)	地域文化広場	29 (3)
4	地域文化広場	30 (3)	JA畷部支店	28 (7)
5	JA畷部支店	29 (7)	スーパーやまのぶ上郷店	25 (6)

謝辞 本研究の使用データは、令和6年度に豊田都市交通研究所が受託した「上郷地域バスの運行評価に係る基礎資料作成業務委託」を通して取得しました。豊田市役所担当者様に厚く御礼申し上げます。

▼ 上郷地域居住の利用者の乗降停留所上位5か所

順位	末野原地域内の降車停留所	延べ利用者数 (実利用者数) (人)	末野原地域内の乗車停留所	延べ利用者数 (実利用者数) (人)
1	メグリア本店	417 (66)	メグリア本店	482 (69)
2	生協会館ハートプラザ	216 (2)	豊寿園	197 (8)
3	豊寿園	198 (8)	生協会館ハートプラザ	163 (1)
4	三河豊田駅前	182 (27)	三河豊田駅前	139 (12)
5	末野原駅	87 (2)	末野原駅	98 (1)

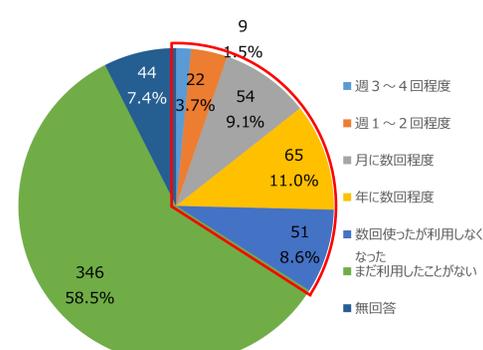
改編前までは地域バスによる地域を跨いだ移動はできなかったのが、主に**通院**や**買い物**といった目的で、**多く行き来されるようになった。**

## 3. 外出回数の変化

2024年12月に行ったアンケート調査データを使用

▼ 調査概要

調査対象	上郷・末野原地域に在住の チョイソコ会員および非会員
調査手法	郵送配布・回収による質問紙調査
配布時期	2024年12月10日
回収期間	2024年12月10日～25日
配布枚数	2,445枚 (会員向け：1,233枚 非会員向け：1,212枚)
回収枚数	1,273枚 (会員向け：591枚 非会員向け：682枚)
回収率	51.9% (会員向け：47.9% 非会員向け：56.3%)



利用経験のある201人のうち、**65歳以上の利用者にとってオンデマンド交通の利用により外出回数が増えたか**に着目

→93人を対象に、順序ロジットモデルを用いて要因分析

### 目的変数

- 外出の回数が増えたか (1：非常にそう思う, 2：ややそう思う, 3：どちらともいえない・わからない, 4：あまり思わない, 5：全く思わない)

### 説明変数

- ① 年齢階層 (1：65～69歳, 2：70～75歳, …, 6：90歳以上)
- ② 居住地域ダミー (1：末野原地域, 0：上郷地域)
- ③ 自分で運転ダミー (1：自分で運転する, 0：しない)
- ④ 1年間で外出を諦めたことがあるダミー (1：ある, 0：ない)
- ⑤ 現行の地域バスの利用頻度 (月あたりの回数に換算)

▼ 推定結果 (\*\*\*)1%有意, (\*\*5%有意, \*)10%有意

説明変数・閾値	推定値	標準誤差	t値
$\theta_1$ 年齢階層	0.345	0.188	1.830 *
$\theta_2$ 居住地域ダミー	-0.392	0.386	-1.017
$\theta_3$ 自分で運転ダミー	1.053	0.467	2.258 **
$\theta_4$ 外出の諦めダミー	-0.751	0.427	-1.760 *
$\theta_5$ 利用頻度	-0.131	0.068	-1.940 *
$\mu_1$ 1 2	-1.427	0.757	-1.884 *
$\mu_2$ 2 3	-0.506	0.724	-0.700
$\mu_3$ 3 4	1.293	0.736	1.756 *
$\mu_4$ 4 5	2.424	0.764	3.174 ***
尤度比	0.048		

**年齢の若い層や運転をしない人は、そうでない人に比べ、バスによって外出回数が増えたと思う傾向にある。**また、**地域間で変化に差があるとはいきれない。**

## 4. まとめ

- 主に通院や買い物を目的として、地域を跨いだ移動がなされており、特に上郷地域居住の利用が顕著に多い。
- 年齢の若い人や運転をしない人は、バスによって外出回数が増えたと思う傾向。⇒今後の利用促進のターゲットとなり得る。